肺がん検診のおすすめ

肺がんは、早い段階では自覚症状がないことが多く、進行すると症状がでることが多くなります。血痰、長引く咳、胸痛、声のかれなどの症状がある場合には検診を待たずに医療機関を受診する必要があります。

1 肺がんの状況

日本全国で 1 年間におよそ 125,000 人が肺がんと診断されています。男性に多い傾向にあり、60 歳ごろから急激に増加しはじめ、高齢になるほど多くなります。がんの部位別死亡者数が一番多いがんです。

2 たばこの影響

たばこを吸う人は肺がんで死亡するリスクが、たばこを吸わない人に比べて、日本人男性で約 5 倍、女性では約 4 倍高くなり、たばこを吸う年数、本数が多いほど肺がんになりやすくなり、たばこは喫煙者本人のみならず、周りの人(受動喫煙者)の肺がんリスクも上げます。

禁煙によってご自身と周りの人の肺がんリスクを下げることができます。

3 肺がん検診の方法

肺がん検診は 40 歳以上、年に 1 回定期的に受診することが推奨されています。

肺がん検診として「効果がある」のは、「胸部 X 線検査」と、「喀痰細胞診(喫煙者のみ)」を組み合わせた方法のみです(喀痰細胞診は単独では行いません)。「低線量の胸部 CT 検査」は死亡率減少効果の有無を判断する証拠が現時点で不十分とされていますが、早期肺がんの発見には有効です。

4 肺がん検診の精密検査

検診で「異常あり」という結果を受け取った場合は、必ず精密検査を受けてください。

肺がん検診における一般的な精密検査は胸部 CT 検査、もしくは気管支鏡検査です。

・胸部 CT 検査

X 線を使って病変が疑われた部位の断面図を撮影し詳しく調べます。

・気管支鏡検査

気管支鏡を口や鼻から気管支に挿入して病変が疑われた部分を直接観察します。必要に応じて組織を採取し悪性かどうか判断します。